

登録コード	SE413300	開講年度	2026				
授業題目	生物学コロキウム				担当教員	高梨 功次郎 他	
英文授業名	Colloquium				副担当	高橋 耕一・柴田 直樹・松本 卓也・小笠原 慎治・東城 幸治	
単位数	4	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・1時限 月曜・2時限	対象学年	3年
講義室	理学部第12講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	必修
信大コンピテンシー 非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 6 Sカリ, 2 5 Sカリ, 2 4 Sカリ, 2 3 Sカリ						
	【2023年度以降加付対象】理学の各分野における専門知識				論文の検索方法、読み方、スライドのまとめ方を学び、各研究室で行われる文献紹介に必要な素地を養う。		
	【2023年度以降加付対象】専門知識や観察・実験などによって問題を理解・解決し、その成果を的確に他者に伝える力				特定の生物学に関する論文、およびその関連論文を読み込むことで該当分野の知識を得、さらにその要点をまとめ、他者に伝えることが出来る。		
	【2023年度以降加付対象】理学の基礎知識と専門知識を活用して課題を発見し取り組み、その成果を社会に役立てる力				最新の当該論文の内容について、概念的に大きな問題を解くための研究にあるか、結論に不可欠の証拠を得ているかを批判することが出来る。		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、環境共生、多文化協働、キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	1．参加するセミナーや卒業研究で必要となる学術情報を、迅速かつ的確に得るために、Web of ScienceやPubMedを用いた文献検索方法を習得する。 2．研究成果を学術雑誌に発表するには、論文の原稿を作成・投稿し、peer reviewを受け、改稿を重ねた末に、掲載を認可（accept）されなくてはならない。学術論文とはどういうものかを理解し、それらを自分の研究課題に関する学術情報源として用いるためには、どのように読解したらよいか、その実技・手法・コツを学ぶ。 3．受講生それぞれが、概念的に大きな（＝学問的インパクトに富む）問題に挑む研究を国際一流紙に探し、その1編を選び、その論文が基づく引用文献を含めた内容を学び、研究課題の学問的価値と位置づけを自らの疑問として問う練習を行う。スライドを用いての口頭発表において、それらの要点をまとめ、最新の当該論文一編を批判する（＝当該の概念的に大きな問題を解くための研究にあるか、結論に不可欠の証拠を得ているか）。さらに、他の受講生の発表を聴くことで自身の発表にフィードバックする。						
(5)授業のキーワード	情報管理、文献検索、オンライン情報、原著論文、総説論文、査読システム、インパクトファクタ、研究発表、口頭発表、スライド作成法、口頭発表用の図表作成、質疑応答の技。						
(6)授業計画	上記の「授業の概要」にある内容について、演習・実習に近い形式でのトレーニングが順番に進行する。 最初の2週には、生物学コースの学生を対象とした卒業研究と研究室の紹介を、関係教員の各自が行う。 授業アンケートに回答する。						
(7)成績評価の方法	出席、課題、論文発表、発表評価の各パフォーマンスを評価する。						
(8)成績評価の基準	課題や発表論文の表層を捉えるだけでは「水準にはない」、課題や発表論文について概要をつかむことが出来れば「水準にある」、課題や発表論文について内容を理解できれば「やや上にある」、課題や発表論文について細部まで理解できれば「かなり上にある」、課題や発表論文について細部まで理解し、他者に自身の言葉で伝えることが出来れば「卓越している」。						
(9)事前事後学習の内容	3年次の8月に各自が開始する予備研究や卒業研究のための準備・試行錯誤には、いわゆる「時間割」がない。3年次の8月に、人生で初めての「時間割のない平日」が始まる。それだけに、3年次の8月からの毎日を使いこなすのは、容易ではない。本科目は、3年次の8月からの毎日を使いこなすためのノウハウを演習することを目的としている。本科目の課題をこなすにあたり、誰も見ていないところで独自にどれだけ時間をかけ、課題にどれだけ熱中できるだろうか。これが生涯の分かれ目になることを肝に銘じてほしい。						
(10)履修上の注意	全日程に出席することが単位認定の前提である。生物学コースの全教員が単位認定を行う。いずれかの教員が単位履修を認定しない受講生には、本科目の単位履修を認定しない。その場合には、次年度に、当該教員の担当部分をすべて再受講しなくてはならない。						
(11)質問、相談への対応	教員が個々に、質問・相談のしかたや、そのための日程と注意事項を含めたアドバイスを、学生各自に直接の対話により行う。この方法による報告・連絡・相談（ホウレンソウ）を、学生各自が3年前期にわたり継続する。						
【教科書】	指定しない						
【参考書】	指定しない						